

会議結果報告書

平成 30 年 11 月 20 日

1. 会議名 平成 30 年度 第 7 回 印西市環境推進市民会議
2. 日 時 平成 30 年 11 月 16 日(金) 9:30～11:30
3. 場 所 印西市役所 25 会議室
4. 出席者 委員：岩井、上田、小山、白川、根本、橋本、平林、福井、松崎
事務局：黒田、海老原（環境保全課 保全係）
瀬口、増山（エヌエス環境）
5. 配布資料
 - ・平成 30 年度 第 7 回環境推進市民会議 会議次第
 - ・平成 30 年度 第 7 回環境推進市民会議 席次表
 - ・印西市環境白書 2018（案）
 - ・印西市環境推進市民会議からの意見記入表
 - ・地域交流館まつり資料
 - ・手賀沼水環境保全協議会協働調査について
6. 内 容
 - (1) 開 会
 - (2) 会長あいさつ
 - (3) 議題
 - 1) 「印西市環境白書 2018（案）」について
 - (会 長) 温室効果ガス排出量について印西市の取り組みと書いてあるが、市の目標はあるのか。
 - (事務局) 作っていない。
 - (委 員) 市内エコプランは例年載せているのに、なぜ環境家計簿はやっていないのか。身近なデータのほうがより省エネ意識が高まるのではないか。白書ではエコプランだけが印西市の取り組みのように扱われていてさみしい。
 - (会 長) 環境家計簿は毎年係数を出しているが、最高でも 50 世帯程度しか参加していない。それでは環境基本計画と連動させることは難しい。また、市の目標を作っていないということであったが、本当は事業者や市民の目標をそれぞれ決めるのが良

いのではないか。大きな市ではやっている。

(委員) 千葉県の目標が出ているので、それを印西市の目標とすればいいのではないか。

(会長) 住宅が多い地域、工場が多い地域など、地域によって目標値は違ってくる。よって、本来は地域ごとに決めるのが良いのだが、印西市は決めていない。

(事務局) 政令指定都市は義務化されているが、印西市は指定された市ではないので、なかなかやっついこうとするまでに至っていない。また、環境家計簿については広報やイベントで普及促進の活動を行っている。

(会長) 長くやっているものなので、活動の状況だけでも白書に載せると良いのではないか。

(委員) 今年は自然災害が多く、被害もあった。自然災害は環境問題の一つでもある。その視点で何か書いてはどうか。

(会長) 大型台風や豪雨など今年はいろんな災害があった。それは単なる自然現象ではなく、地球温暖化が影響しているというのが一般的な考えになっている。気温も 40 度を超え、健康被害も出ている。そういった内容を環境問題の背景として言及しておくと思いと思う。

(事務局) 続いて、第 2 章について説明する。

(会長) 質問があればどうぞ。

(委員) 遊休農地が減っているが、その理由は何か。

(事務局) 耕作放棄地の再生利用を推進したこともあるが、農地転用によるものが多い。

(委員) 一番の大きな理由は太陽光発電の設置である。それが今は大問題になっている。

そのことを市はしっかりと把握しておく必要がある。太陽光発電の設置場所を 7 か所見て歩いたが、植栽が悪い。雨が降れば崩れる。そうなれば近隣の住宅に迷惑がかかる。

(事務局) メガソーラーなど大型の太陽光発電の設置に関しては、市に届け出るものではないので、把握するのが難しい。国や県ともに対応が遅れており、しっかりとした管理計画の届け出を要するとした条例がない状態である。

(委員) 太陽光発電システムなどは補助金の申請があったものに関しては把握できても、申請のなかったものは把握できていないのか。

(事務局) 把握できていない。

(委員) 小さなものでも設置してあれば地盤に問題がないか調査すべきである。また、そうした設置を見逃している市に問題がある。

(会長) 大型の太陽光発電は経産省が管轄しており、そこからデータはもらえるのではないか。

(委員) この問題は景観条例に違反しないのか。

(委員) 景観条例を読んでみたが、そのようなことには触れていない。

- (委員) 光害の被害が出ているので、市は対応しなければいけない。
- (委員) インバーターの騒音も問題になっている。
- (委員) 農地転用の状況がわかるのであれば、内訳もわかるはずである。太陽光発電への転用がどれくらいなのかを加えると良い。
- (事務局) 内訳で上位のものは16頁「農地の状況」に記載しているが、今回は住宅用地と駐車場用地への転用が多かったため、太陽光発電については記載しなかった。太陽光発電への転用件数は下がっている。
- (委員) 下がっていてもいいので、太陽光発電への転用がどれくらい進んでいるのか継続したデータを載せてほしい。
- (会長) 単独浄化槽や合併浄化槽の点検を怠っている住宅から、手賀沼、印旛沼に流れて汚濁しているという意見がある。これは市としても注目して対処していかなければならない。
- (事務局) 今年度から高度処理型の浄化槽(N10型)について、今までの補助金に上乗せして支給額を増額し導入しやすくした。また、汲み取りや単独槽から合併浄化槽への転換を促すため転換の案件に限り、配管工事費も補助対象とした。
- (委員) 草深は新しい住宅が何軒も建っているが、新築に関しては高度処理型を設置しているのか。
- (事務局) 補助金を出しているものは高度処理型である。中には補助金を利用せずに自費で設置するところもあり、それらについては高度処理型ではない可能性もある。
- (会長) 光化学オキシダントについて、今年は気温が高かったため多かった。大気測定で二酸化窒素や浮遊粒子状物質は環境基準を達成しているが、光化学オキシダントは注意報が何度か発令されたりして、大気中の汚染物質としていまだに問題となっている。自動車の排ガスや中国から流れてくるといったことも原因となっていて、クリーンセンターだけのせいではないと話題になっていた。
- (事務局) 続いて、「3-1 快適で住みよいまちにしよう」について説明する。
- (会長) では、ここままで何か意見があればどうぞ。
- (委員) ゴミゼロ運動参加団体数が減った理由は何か。
- (事務局) 団体構成員の高齢化だと予想される。
- (委員) 目標が256団体となっているが、目標値が高すぎないか。
- (委員) どういう団体があるのか不明である。自治体だけでは目標値が高すぎるので、老人クラブやその類の団体も含めているのだと思う。内訳があるとわかりやすい。
- (委員) 不法投棄件数は目標値に近づいているが、内容はどんなものがあるのか。例えば悪質なものはあるのか。
- (委員) どんなものが不法投棄されているのかがわかれば、評価もできるのではないかと。件数だけでは評価は難しい。

(会 長) 昔は大きなダンプで、大量のゴミを置いておくのがあったが、今はどうか。

(事務局) 今でも小型のダンプのものは、年に2回くらいある。

(委 員) 捨てやすい場所はあるのか。

(事務局) そういう場所にはカメラを設置している。

(委 員) カメラのチェックは常時行っているのか。

(事務局) 主に設置しているのは簡易式カメラで電池式である。定期的に電池交換を行っており、その際に映像をチェックしている。基準年度から比べると不法投棄の件数はかなり減っている。

(委 員) 電機大学の横の空き地は毎年大量のゴミが捨てられている。ゴミ捨ての名所になっている。

(事務局) 続いて、「3-2 歴史・文化が感じられるまちにしよう」について説明する。

(会 長) この項目について、何か意見があればどうぞ。

(委 員) 文化財の保護を推進する市民団体がいろいろと活躍しているようだ。

(事務局) 続いて、「4-1 地球にやさしいまちをつくろう」について説明する。

(会 長) この項目についての意見はどうか。

(委 員) コミュニティバスのエリアが限られているし、便があっても本数がない。この地区の住民にとっては、満足に市のサービスを受けられていない。

(委 員) コミュニティバスが全エリアを網羅できていないわけではない。交通不便地域対策の実施に向け検討していくと総評に書いてある。

(会 長) ここにコミュニティバス利用者を増やそうとして環境指標を載せているのは、環境保護のためマイカーではなくコミュニティバスを使いましょうという啓発のためである。今は、交通の不便な地域では乗り合いタクシーみたいなものを実施している。

(委 員) 本埜地区でデマンドタクシーというのを実験的にやっている。

(委 員) 酒々井町にはゆうゆうタクシーというのがあって、65才以上の方が安く利用できるものがある。印西市にはそういうものがいまだに発達していない。印旛村のときは循環バスがあった。合併してから不便になった。

(会 長) 今後改善を進めてほしいところである。

(委 員) 環境のために市が取り組んでいることがどこかにまとめてあるとわかりやすい。ずっと読んでいけばわかるが一目でわかるようなものがあると良いのではないかと。

(事務局) 続いて、「4-2 資源循環型のライフスタイルを实践しよう」について説明する。

(会 長) 新聞や古紙をティッシュペーパーなどに交換してまわる業者が流行っている。そのような業者は市に回収量を報告しないので、その数値が総資源化率に反映され

ていないのである。

(委員) 個別業者からも市に情報があがる仕組みが必要である。

表の下に「総資源化率の数値について、個別の業者に出しているものは含まれていない」ことを注意書きとして書き入れた方が良い。

(会長) 資源化率を上げることより、ごみの減量化が進むことの方が重要である。

(事務局) 続いて、「5-1 環境を考え行動をする人を育てよう」、「5-2 環境配慮行動の実践を促すしくみをつくろう」について説明する。

(会長) 小中学校でごみを減量化に関する出前講座を年に何回もやっている。環境学習が活発になってきている。

(事務局) 続いて、「第3章 印西市庁内エコプランの進捗状況」について説明する。

(会長) この目標値は平成29年度で終わりになる。次の目標はどうなっているのか。

(事務局) これまでの第3次庁内エコプランは平成29年度で終了し、平成30年度より第4次庁内エコプランに取り組んでいる。平成が今年度で終わるので、西暦で説明するが、新たなエコプランでは基準年度を2013年度として2030年度までに温室効果ガス排出量を26%削減することを最終目標として設定した。しかし、国の方針では2030年度までに40%削減を目指していることから、印西市でも国の削減目標に近づけるよう、今年度中に第4次庁内エコプランの改訂を予定している。改訂内容としては積極的に省エネ設備を整備することを盛り込む計画としている。

(会長) それはどこで作っているのか。

(事務局) 庁内で作成している。改訂はこれからである。作成に際して印西市は国から補助金が受けられるようになった。それを利用して、削減目標の40%に近づけるように改訂をしていく。今は業者選定まで終わり、今後契約を進める。このような段階である。

(会長) 作成した計画を市民に公開して、市民からの意見を聴取するようなことはするのか。

(事務局) 庁内のエコプランなので、そこまではやらない。時間的にも厳しい。

(会長) 議会の承認は必要ではないのか。

(事務局) 不要である。

(委員) 今年3月に公用車が盗難にあったが、どんな管理をしていたのか。

(事務局) 運行日誌を付け管理している。盗難後、出張所等においては駐車する際にハンドルを固定する棒を設置し対策している。

(委員) ホームページで盗難にあったという記事は載せてあったが、その後どうなったのか。

(事務局) その後の報告は受けていない。

- (会 長) 次の資料編について、事務局から説明をお願いしたい。
- (事務局) 前年度の白書では、環境に関する市民・事業者意識調査の集計結果を資料編に掲載したが、この調査は 3 年に 1 回の実施のため、今年度は載せていない。次回は平成 32 年度版白書の発行の際に掲載を予定している。
- (会 長) 資料編も含めて、他に意見があればどうぞ。
- (委 員) 満足度調査というのがあって、その中に環境に関するものが多くある。その結果を白書にも載せてほしい。
- (事務局) 満足度調査については別に公表されているので、ページ数が限られている白書に掲載するのは難しい。
- (会 長) 満足度調査は毎年やっているのか。
- (委 員) 2 年毎である。前回の結果と併せて経年変化が見られるようになっている。市民の意識がどう変わっていくかがよくわかる。
- (事務局) 環境白書の第 2 章に関して、別紙の「環境推進市民会議からの意見記入表」にみなさまからの意見をいただきたい。白書の 10 頁を参考にしていきたい。12 月 7 日までにメール、FAX、郵便のいずれかで提出をお願いしたい。

2) 地域交流館まつりについて

- (会 長) 次の議題、「地域交流館まつりについて」は、資料の作成にあたった松崎委員から説明をどうぞ。
- (委 員) 今年は大雨や台風、地震などの自然災害が多かった。そのことについて考えてもらいたいということで資料を作成した。掲示物として、内水ハザードマップと揺れやすさマップを貼ってもらいたい。他には、昨年使用した特定外来生物の写真付きのもの、環境家計簿を掲示する。啓発内容の文章は、クイズの箇所だけ色分けして読んでもらえるようにする。(資料に沿って説明)。最後は子供向けとして、ペットは最後まで飼うということを啓発する内容を加えた。
- (委 員) 来場者はすべてのクイズに答えるのか。
- (委 員) 啓発内容を貼っておいて、これを見て関心のあるものだけ答えてくださいと伝える。
- (委 員) すべての内容に目を通していたら、渋滞になる。混雑してきたら、空いているスペースに誘導して見てもらうようにする。
- (委 員) 全問回答しなくて良いということ、どこかに書いておくとわかりやすい。
- (会 長) 次に、子供向けの啓発ポスターについて小山委員から、説明をお願いしたい。
- (委 員) 「ペットは最後まで飼う」ということをお願いするためのクイズとした。子供向けに写真を入れた。これを必ず来場者に呼び掛けてもらいたい。
- (事務局) 出席者を確認したい。今回は 11 月 24 日 (土) のみの参加で、午前中は福井委員、松崎委員が終日参加、午前のみが平林委員、橋本委員、午後のみが根本委員、

- 未定であった上田委員と白川委員は欠席ということによろしいか。(異論なし)。ブ
ースは昨年と同じ場所である。集合時間は午前が 9:30、午後は 13:00 とする。
- (委 員) 子供向け、大人向けのクイズがそれぞれあるが、家族連れも多いので、臨機応変
に対応してもらいたい。
- (会 長) 大事なのは、我々とコミュニケーションをしてもらい情報が少しでも伝わったと
思えば、スタンプを押すこととしたい。
- (事務局) 当日は、松崎委員が資料を持参するのか。
- (委 員) 持参する。
- (事務局) 駐車場の説明に移るが、例年どおりクリーンセンターの駐車場を使う。台数は 7
台分を確保している。利用できるスペースは昨年と違うため、別紙の図で確認して
ほしい。

3) 手賀沼流域協働調査について

- (会 長) 事務局から説明をどうぞ。
- (事務局) 12月10日(月)に手賀沼水環境調査を実施する。今回は水質調査のみである。
9:30にロビーに集合し、現地に出発する。亀成川を愛する会も参加し、そちらに
小山委員は参加する。市民会議からは白川委員、平林委員、福井委員の3名を予定
していたが、白川委員は欠席となるので、誰か代わりを務めていただきたいがどう
か。
- (委 員) はい。
- (事務局) では、上田委員にお願いします。
- (会 長) この議題は以上とする。

4) その他

- (会 長) その他に何かあればどうぞ。
- (委 員) 12月2日(日)に印西市と協働して手賀沼クリーン作戦を実施する。9:30印
西中学校に集合して、亀成川周辺でのごみ拾い、ナガエツルノゲイトウの駆除を行
う。詳しくは広報にも掲載しているので参加をお願いしたい。
- (会 長) では、本日の議事はこれで終了する。

平成30年度 第7回 印西市環境推進市民会議の会議録は、事実と相違ないこと
を承認する。

平成31年2月15日

委員 松崎 登

委員 橋本 千代子